

サクラ類の根頭がんしゅ病非検出の結果ならびに対応を整備計画に反映

## 第23回奈良公園植栽計画検討委員会

### 【概要】 茶山園地 植栽計画・実施計画

※茶山園地実施計画より抜粋

#### 目 次

1. 基本的な考え方 ……2
2. 計画方針 ……3
3. 計画目標 ……4
4. 整備計画 ……5

### 「サクラと眺望を楽しみつつ若草山に向かう場として、 植栽・景観を保全・継承する。」

計画対象地の植栽・景観は、各ゾーンそれぞれに特徴があるが、奈良公園の中でも特に大きく生育したナラノヤエザクラ等が主体となったサクラ林と、若草山に向かう歩行者のメイン園路等から楽しむ景色や眺望は、奈良公園の魅力を高める主要な要素である。

本計画では、この魅力を活かした植栽・景観を保全・継承するため、次の2つの主要課題に取り組む。

#### 主要課題1：サクラ林の景観演出

##### ●サクラ林の景観の改善

西側スロープから見た北斜面をはじめ、様々なところで、生長した樹木によりサクラ林への見通しが阻害されているため、阻害樹木を伐採・剪定する。

##### ●サクラ類の生育環境の改善

ナラノヤエザクラ等は、植栽後40～50年経過し、近年風倒、樹勢の衰退が多い。多数の根頭がんしゅ病の発生や、日照の阻害が見られるため、これらの改善により、健全な育成を図る必要がある。

##### ●サクラ見本園と連続したサクラの景の演出

尾根の自然林ゾーンの裸地部にサクラ類を植栽し、春日野園地のサクラ見本園から、連続したサクラの景を演出する。

#### 主要課題2：若草山や生駒山系等への眺望確保

##### ●生駒山系等への眺望確保

花見ができるサクラ林ゾーンや山麓道から生駒山系への眺望は、生長した樹木に阻害されているため、阻害樹木を伐採・剪定する。

##### ●若草山が見え隠れする眺望の保全

計画対象地のメイン園路は、若草山山麓に向かう主要動線であるが、生長した樹木に阻害され、若草山への眺望が阻害されているため、阻害樹木を伐採・剪定する。

阻害している樹木の中には、保全・継承すべき大径木も多く含まれることから、対策が比較的容易な地点を優先して対策を行い、見え隠れする若草山の眺望景観を保全する。

# 1. 上位計画

## (2) 計画方針

茶山園地植栽計画より抽出

計画方針：ナラノヤエザクラ等を中心としたサクラ林を活かし、サクラと眺望を楽しみつつ、若草山に向かう場所として、植栽・景観を保全・継承する。

- ・サクラを楽しむ場として、ナラノヤエザクラ等を中心とした植栽・景観を保全・継承する。
- ・若草山や生駒山系等への景観資源を活用する。

### 山麓道沿いモミジ林ゾーン

- ・イロハモミジが主体となった植栽・景観を保全・継承する。
- ・花見ができるサクラ林ゾーンから生駒山系への眺望に配慮する。
- ・花見ができるサクラ林ゾーンのサクラへの見通しを改善する。

### 尾根の自然林ゾーン

- ・ナンキンハゼを駆除する。
- ・春日野園地のサクラ見本園から連続したサクラの景とする。

### 手向山神社の社叢ゾーン

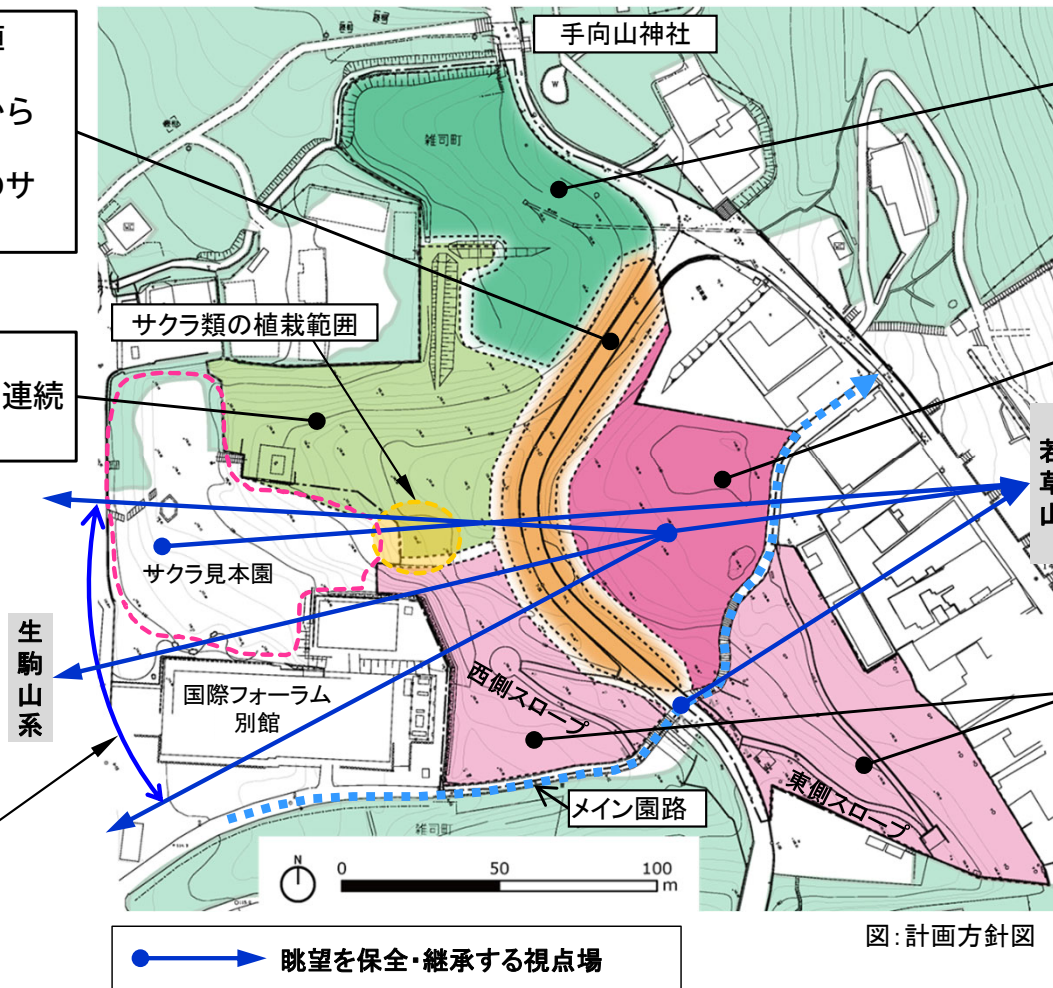
- ・手向山神社との調和に配慮し、社叢の樹林・景観を保全・継承する。

### 花見ができるサクラ林ゾーン

- ・サクラ類の生育環境を改善し、滞留に適した平坦部のサクラ林を保全・継承する。
- ・生駒山系への眺望を確保する。
- ・若草山への眺望を保全・継承する。

### スロープ沿いサクラ林ゾーン

- ・サクラ類を保全・継承する。
- ・サクラ類の生育環境を改善する。
- ・大径木のモミヤクスは原則として保全・継承する。
- ・若草山への眺望を改善する。
- ・西側スロープから斜面上部への見通しを改善する。
- ・民地沿い緩衝林は、若草山への眺望と民地への緩衝を両立する。



図：計画方針図

# 1. 上位計画

## (3) 計画目標

茶山園地植栽計画より抽出

### 尾根の自然林

- ・ナンキンハゼは、全て伐採し、イチイガシ、モミ、ケヤキ、エノキ等を補植する。
- ・明るく開けた場所には、サクラ類を植栽する。

### 山麓道沿い

- ・イロハモミジを保全・継承する。
- ・サクラ類の日照や見通しを阻害する樹木を伐採、剪定する。
- ・表土流亡を改善する。

### 平坦部のサクラ林

- ・サクラ類を保全・継承する。
- ・平坦部の排水性の保持に留意する。
- ・若草山への眺望を保全・継承する。
- ・生駒山系への眺望確保のため、阻害樹木を伐採、剪定する。

### 西側スロープのサクラ林

- ・サクラ類を保全・継承する。
- ・表土流亡を改善する。
- ・北斜面のサクラ類への視線の見通しを確保するため、阻害している樹木を伐採、剪定する。
- ・若草山への眺望を改善する。

### 柵内

- ・アカマツ等を保全・継承する。

### 東側スロープのサクラ林

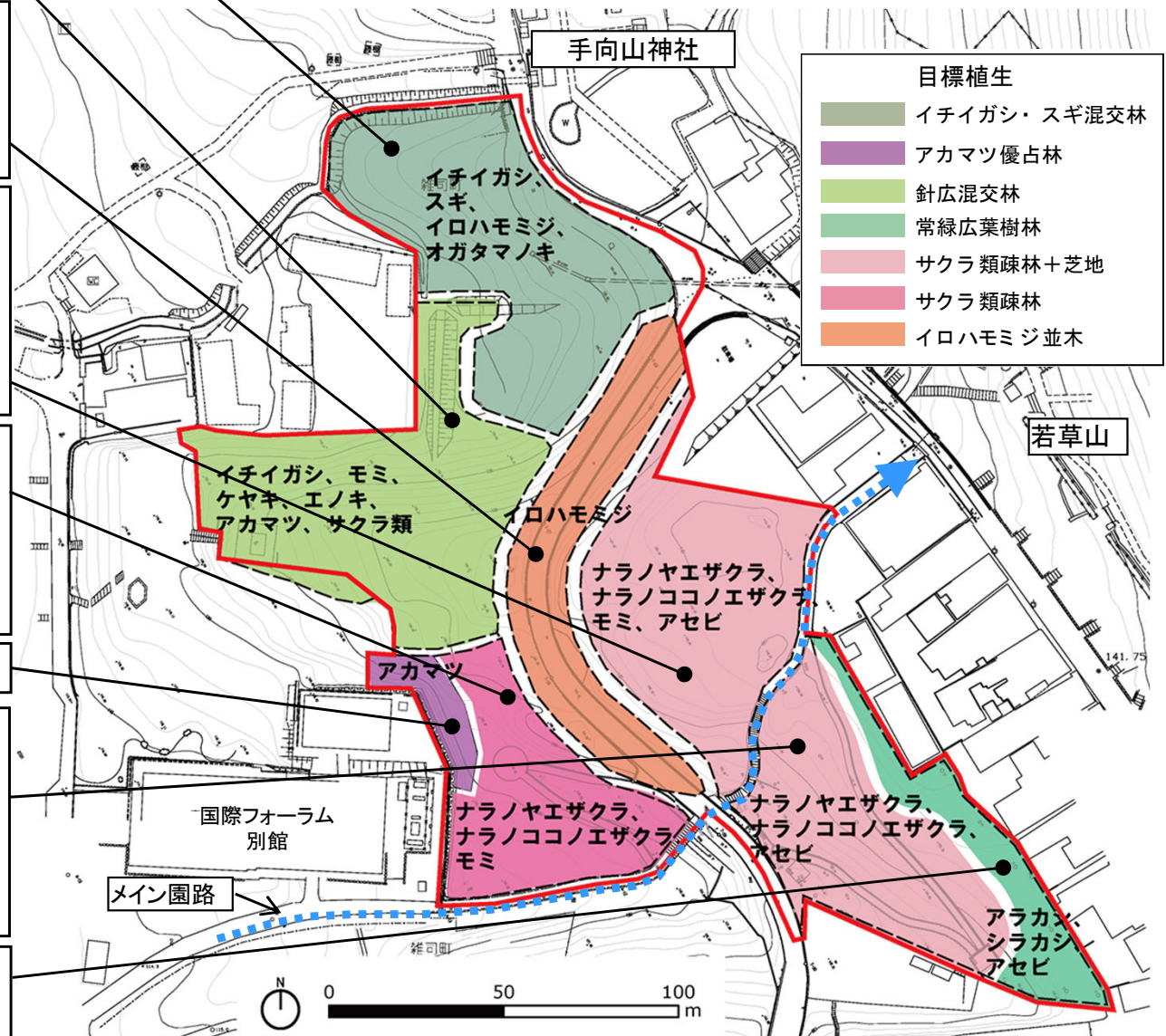
- ・サクラ類を保全・継承する。
- ・表土流亡を改善する。
- ・大径木のモミやクスは原則保全・継承する。
- ・横断歩道付近から、若草山を部分的に視認できるように、伐採、剪定する。

### 民地沿いの緩衝林

- ・生長した樹木の密度を下げ、民地の建物前にアセビ等を補植することで、民地への緩衝と、若草山の眺望を両立する。

### 手向山神社の社叢

- ・手向山神社に関わりのある樹種（スギ、イロハモミジ、オガタマノキ）を保全・継承し、後継種（スギ、イロハモミジなど）を補植する。
- ・社叢にふさわしくない樹種（イチヨウ、イヌガシ）を伐採する。



注：図中の樹種は主要樹木を示す。

図：目標植生図

# 4. 整備計画

## (1) 高木伐採(除却)・剪定

サクラ類の根頭がんしゅ病非検出の結果をうけ、サクラ類の伐採は取りやめとする。

- ・高木伐採は、本計画の整備方針に基づいて行う。
- ・伐採の適否や剪定の強度は、樹木の健全度や眺望景観の変化を確認しながら進める。

※重度のサクラ類は、初期診断結果より、根頭がんしゅ病の罹病かつ、幹や根元の腐朽が確認されたものを対象とした。

表: 伐採・剪定本数

		高木伐採 (除却)	剪定
— 重度のサクラ類※		8本	—
日照・眺望改善	モミ	—	2本
	クスノキ	—	1本
	アラカシ	4本	—
	シラカシ	2本	2本
	イヌガシ	39本	—
	シロダモ	3本	—
	リンボク	1本	—
社叢に不適	ハンノキ	—	1本
	イチョウ	4本	—
樹種不適	イヌガシ	11本	—
	ナンキンハゼ	15本	—
計		87本	6本

・危険木の伐採は含んでいない。

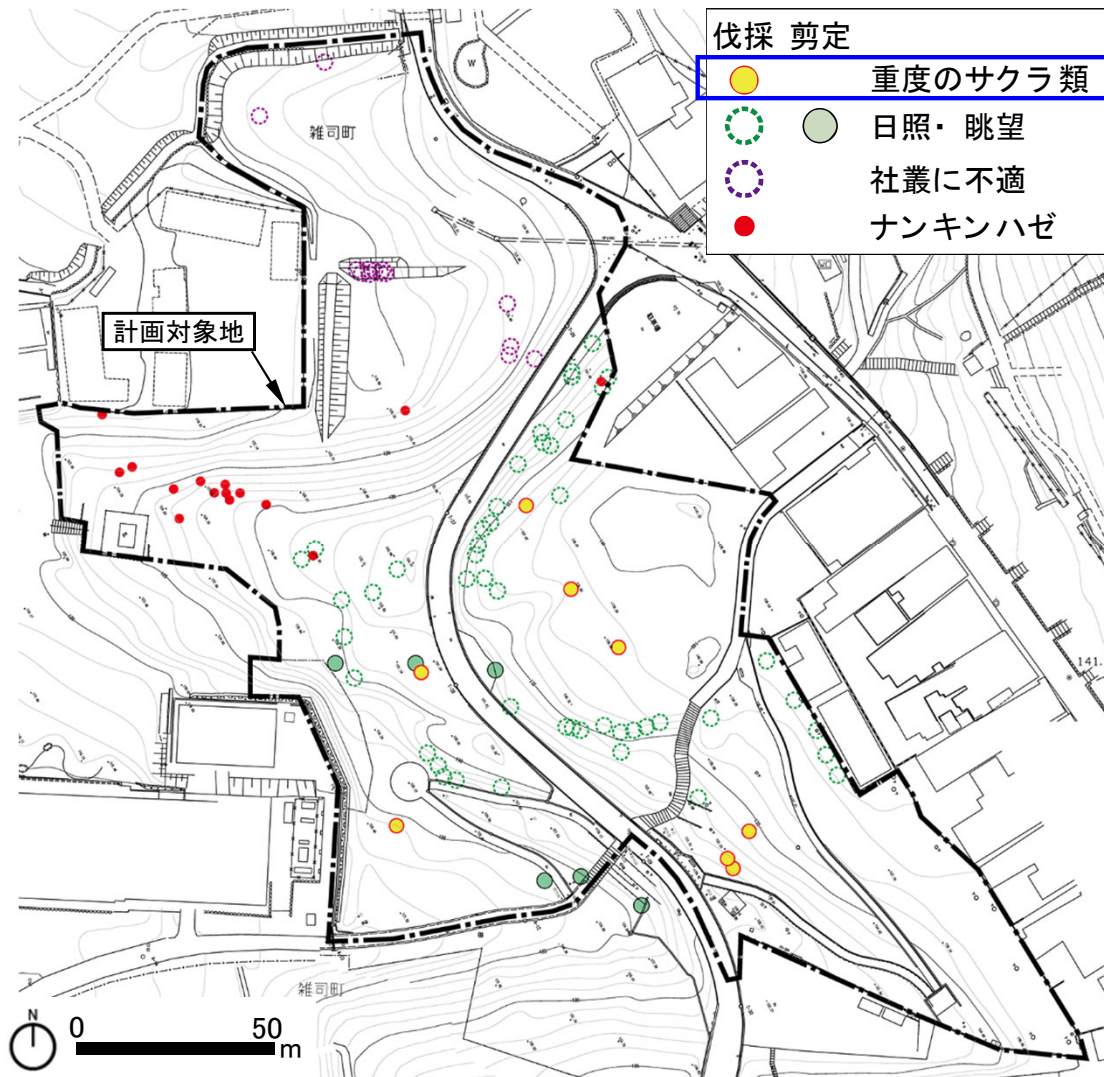


図: 伐採・剪定 候補樹木

# 4. 整備計画

## (2) サクラ類の補植・病害対策

サクラ類の根頭がんしゅ病非検出の結果をうけ、当面サクラ類のモニタリングを実施する。

・各エリアの整備方針に従い、植替更新、補植を行う。

●根頭がんしゅ病の調査、検討、対策  
・日照や眺望を阻害する高木伐採の進捗に関わらず、根頭がんしゅ病の詳細な調査を行う。  
・調査成果に基づいた対策を検討し、検討内容に基づいて対策を実施する。

●カスミザクラの補植  
・カスミザクラの補植は、日照や眺望を阻害する高木伐採完了後に行う。  
・カスミザクラの補植の際、生駒山系への眺望範囲では、眺望に配慮した植栽配置とする。  
・補植の際には、樹木密度を見直す。

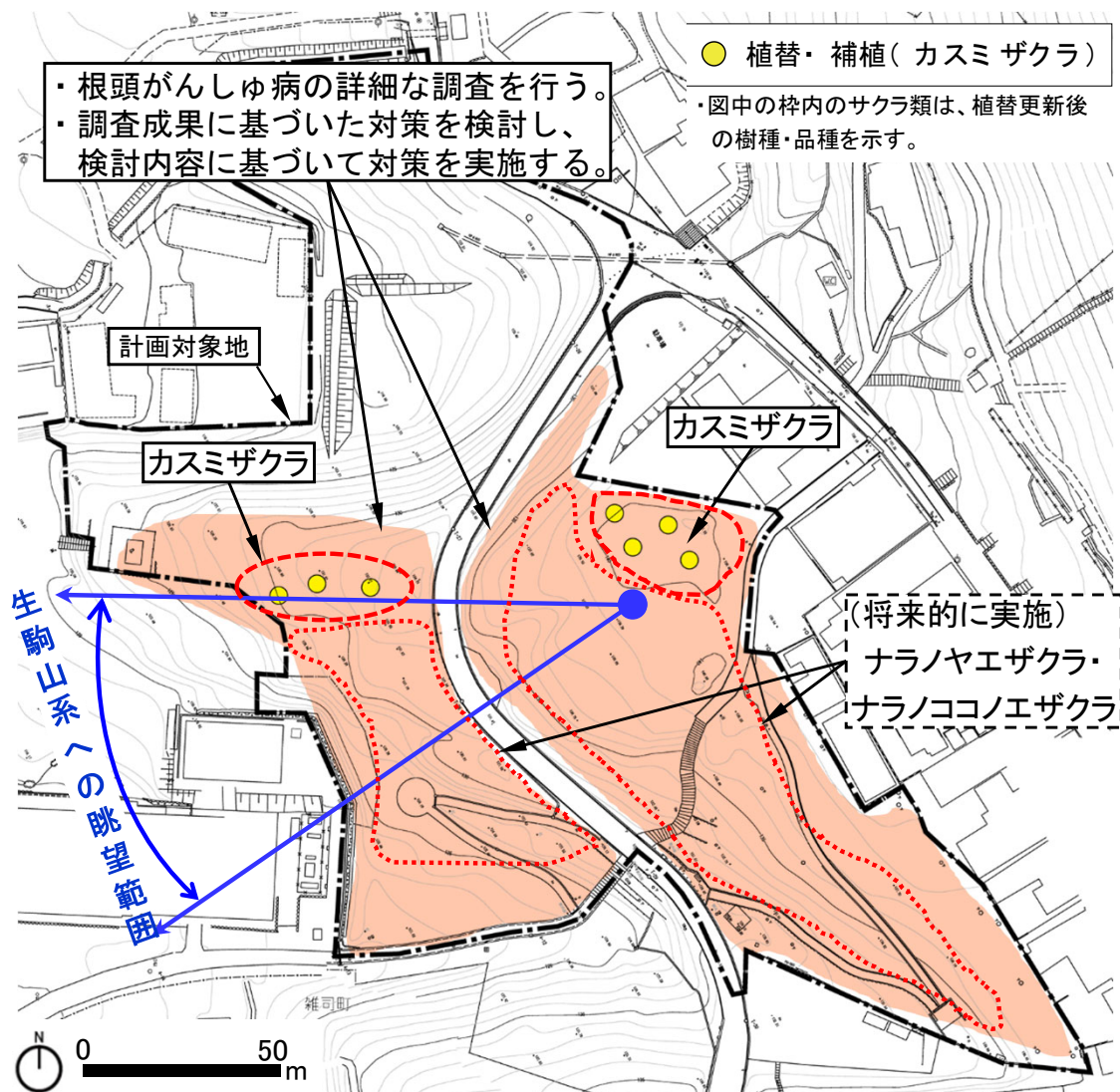


図: サクラ類の補植・病害対策

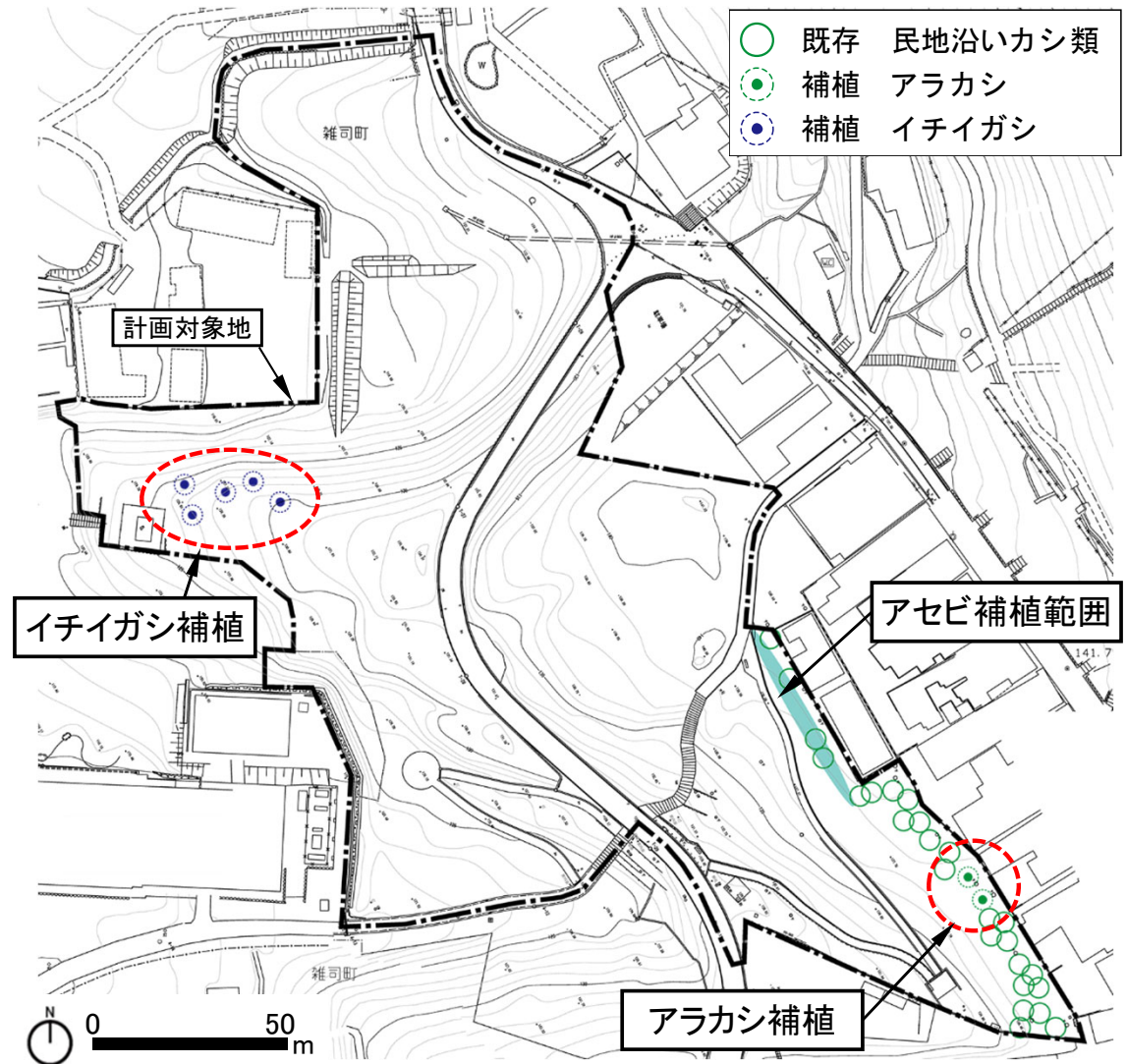
## 4. 整備計画

### (3)カシ類・アセビ補植

- ・各エリアの整備方針に従い、補植を行う。
- ・アラカシは、民地沿いの遮蔽林であるカシ類が抜けている箇所に補植する。
- ・アセビは、民地建物を遮蔽するように補植する。
- ・イチイガシの補植は、他の工事に合わせ適宜行い、アラカシ・アセビの補植は早期の実施が望ましいため、高木伐採・剪定と同時に行う。

表：イチイガシ・アラカシの整備本数

	補植本数	備考
イチイガシ	5本	
アラカシ	2本	



図：イロハモミジ・カシ類・アセビの補植